

テーマ 日本被団協のノーベル平和賞受賞  
について考えたこと

題名 これからの幸せのために

鹿沼市立加蘇中学校 (氏名) 大貫 光彩



私は、日本被団協がノーベル平和賞を受賞したと知り、68年間頑張ってきた人々の努力が世界に認められたことをとても嬉しく思いました。今回、広島派遣に参加し、今まで深く考えなかった戦争について考えるきっかけになり、より核兵器の恐ろしさを感じました。そのようなとても恐ろしい核兵器を廃絶させようとしている人々の努力のもと核のタブーが定着してきたことは核廃絶に近づく大きな一歩だと思います。そして日本被団協の方々の頑張りを無駄にしないために、同じ過ちを繰り返さないために、私たちに何ができるのか考えました。まず一つとして、今ある生活を大切にすることです。人それぞれ暮らしている環境は異なりますがその「日常」がいつ変わってしまうか分からないのは同じです。

そのため一人一人が一日一日を大切にすることが大事です。そして戦争、核兵器、また、いじめや犯罪などの人の命を簡単に奪うような行為がなくなることを願います。二つ目として考えたのは、広島派遣で見て、聞いて、感じたことを自分の中で留めて終わりにするのではなく、一人でも多くの人に伝えることです。私は始めても書いたように戦争のことについて考えたり核兵器の恐ろしさを感じたりしました。それだけではなく、家族のいる幸せを感じました。

平和記念資料館で疎開先の子供に向けてこれから頑張ってねというお母さんの手紙や、両親を失って孤児になる子供の写真などを見ました。その時いかに自分が幸せに暮らせているのか考えさせられました。そのような家族のありがたみ、当時の悲惨さ、戦争・核の恐ろしさを伝えていきたいです。

被爆した方や当時の様子を知っている方が減っている今、これからのことが私自身、次世代担う私たちのできることだと思います。